



なでしこ

東京都杉並区立大宮中学校 学校だより

令和4年6月30日 第3号(19-56)

発行責任者：校長 関田 誠

『大宮中精神：優しさをもって、夢や目標に挑戦する若者であれ！』

6/20（月）朝礼校長講話 『大宮中に流れる優しさの神髄』

運動会から定期考査と怒涛の6月です。大きな学校行事と勉強との気持ちのギアチェンジは、上手くいきましたか？やりっぱなしにせず自分の取組みを振り返り、次に活かしましょう。

さて、6月は東京都の『ふれあい月間』です。毎回いじめアンケートをおこなっています。自分の周りの人間関係を点検するチャンスです。現在の大宮中に流れる空気は、一言で表現すると『優しさ』です。これまでに何度も言っていますが、『優しい』の意味は、『人を憂う』つまり周りの人を（大丈夫かな？）と気にかける心だと私は思います。その心を発揮してくれた三年生がいました。先月の学校だよりに載せた、善い行いをした人たちをあらためて紹介します。

状況を説明します。四人は下校途中に、済美教育センターの前の路上で、何やら困った感じのお年寄りに出会います。（大丈夫かな？）と話してみると、道に迷ってしまって自宅への帰り方がわからなくなってしまった様子です。実は、四人には帰宅してから、それぞれ習い事や塾等の予定がありました。さて、皆さんならどうしますか？ ①一緒に自宅を探す。（自分たちで何とかしてやろうとする。）②交番に連れていく。済美教育センターに連れて行く。通りかかる大人に相談する。（大人のを力を借りる。）③用事があるからと言ってその場を離れる。（見捨てる…？） 色々な選択肢がありますね。何が正解でしょうか？四人はお年寄りの自宅まで自分たちで送っていくことにします。一緒に川沿いを歩いているうちに、成田東の辺りで、お年寄りが「この辺りは知っているからもう大丈夫」と、ホッとしたように伝えたそうです。そこで四人はお年寄りと別れて、帰路に着きました。おそらく四人の足取りは軽かったことでしょう。

この出来事がなぜ分かったかということ、翌日、このお年寄りから道案内をしてくれた大宮中生に対して、感謝を伝える電話が職員室に入ったからです。それを聞いて、先生方も心が温くなりました。今回の出来事は、一本の電話がなければ、人知れず四人だけの小さな心温まるエピソードで終わったはずですが、考えてみると、校内では毎日、人知れず大人たちしか知らない『優しさ』の小さなエピソードが積み重なっているはずですが、そんな優しい風の流れる大宮中に支えられての四人の行動なのだと、私は思いました。

さあ、四名の三年生はステージに登壇してください。皆さん、大宮中を代表する善い行いをしてくれた四人に、拍手のシャワーを浴びせましょう。（パチパチ）。ありがとう。そして、そして、例のコールをいきましょう。運動会の閉会式で、1、2年生が3年生のリーダーシップに対して浴びせた「良いねえ〜」コールです。「全員で大きな声で。四人の行動に、せえの」「（全員で）良いねえ〜！」。拍手で降壇しましょう。次は皆さんの出番かもしれません。夏休みまで一か月を切りました。一日一日を充実させましょう。『頑張る時はいつも今』ですね。終わります。😊



授業ぶらっと訪問②

6月24日(金) ①2A 近藤先生 数学少人数

11人の授業です。5分間計算テストから入ります。一次方程式、連立方程式の計算や代入して値を求める問題です。移項を正確に行えることが必須ですが、生徒は慣れてきている様子です。時間が来ると、近藤先生は黒板で生徒に問いかけながら、手早く解説しながら確認していました。次にプリント学習に入ります。連立方程式の文章題です。「ある店では、ハンバーガー



とフライドポテトを合わせて200個を作った。そのうちハンバーガーは80%、フライドポテトは90%が売れて、合わせて168個が売れた。この店で作ったハンバーガーとフライドポテトの個数をそれぞれ求めなさい。」という問題です。表を使ってハンバーガーの個数をX個、フライドポテトの個数をY個と置いて、連立方程式を立てさせます。ハンバーガーとポテトを材料にしているのは、生徒が食いつく工夫でしょうか。もう一つの問題も今どきのSDGsへの関心の高まりから作ったと思われる問題でした。リサイクル活動のアルミ缶とスチール缶の回収で、先週と今週の増減(%)と回収量(kg)の関係から連立方程式を立ててそれぞれの缶の分量を解いていきます。各自で表を作って、XとYを置いて連立方程式を作ります。途中で、近藤先生が「出来た生徒は立ってまわりを見て、考え方につまずいている人を教え合おう」と言うと、

何人かが慣れた雰囲気、周囲の生徒の所に行って教え始めます。今日のめあての『表を使って連立方程式をたてて解こう』という内容が、



問題を考えるうえで、表組をすることで頭を整理することに有効だということが理解されたようです。終始和やかな雰囲気、で応用問題に挑戦していました。

6月22日(水) ①1B 社会 蛭沢先生

本時は地理の気候の学習です。蛭沢先生、慣れた手つきで画像を手早く写します。「何という動物でしょう?」「アルパカ」「ここは?」「マチュピク」「行ってみたいですか?」「行くには大変~」元気よく答えが出てきます。ロイロノートを起動させます。「次の語句を用いて高地の暮らしを説明しなさい。『乾燥 日干しレンガ、アルパカ、紫外線』寒さと強い紫外線から身を守るため、アルパカの毛で作られた衣服や帽子云々という現地の人が気候に適應するための工夫についての説明を記述させています。

次は、突然カレーの話題に移ります。世界の様々なカレーの画像を写します。カレーと一緒に食べる主食は米、ナン、ジャガイモなど。気候と密接な関係があること、住居も気候と関係があることに気づかせます。ここで今日のめあて。『世界各地の衣食住にはどのような違いがあるのか理解する』です。

自作プリントを配ります。世界の主食は、米、小麦、トウモロコシ、イモ類があり、気候と密接に関係することを考えています。ここで蛭沢先生は、紙袋からコーンフレークを取り出します。袋の裏を大きく拡大した画像を写して、皆でトウモロコシからコーンフレークを作る方法を確認します。それから袋を全員に回します。私にも回ってきました。読んでみるとビタミンB2が豊富に含まれているそうです。食べ方の違いも押さえていました。箸、フォーク、手を使って食べる文化や宗教による違いだそうです。細かく調べると面白そうですが、この辺りはサラッと進みます。ここで『箸』という漢字は、『者』の部分に点があるということを書き示して、私は気になったので、後でネットで



調べてみると、元々は点がある漢字でしたが、現在では点がなくても正解のようです。最後に住居について。プリントを使って、世界の気候帯の分布と住居の主な材料について、個人で整理する時間を取っていました。



授業者の
蛭沢先生は、
新採の若手
のニューフ
ェイスです。
社会科は一
人のため、全

学年の授業の準備に追われて、毎日遅くまで頑張っています。教科書だけでなく、図表や実物を持ち込んで、生徒の関心を高めて、分かりやすい授業を心がけています。授業中は落ち着いた口調でゆったりと喋ります。1Bの生徒は、集中して聴きながら、先生の質問に反応して活発に声が出てきます。この学級は専ら男子の声が多く、女子の声が少ないようです。個人でちょっと考えさせる時間、2、3人で短時間で話し合いをするような機会を設けると、一層頭が回転しそうだと感じました。

6月23日(木)① 宮本先生 1B少人数

宮本先生、今朝もにこやかな笑顔で授業を始めます。イントロは英語で挨拶から月、日、曜日の呼び方を確認します。次に、生徒をその場に立たせて、英語で指示を出して生徒を動かします。「クローズユアアイズ」「ターンレフト」「ライト」「アラウンド」「オープンユアアイズ」あれ向きが違う人がいるよ？みたいなことをします。『ボードゲーム』はタブレットで表示される動くサイコロを使って、二人組ですごろくの目を進みながら、英語の指示に従って校歌を歌ったり、踊ったり、体操したり、三回ジャンプしたりしながら、自然に英語を使っています。次に教科書に入ります。『ニュージーランドの友達』について学ぶようです。まずニュージーランドを紹介する動画を観ます。その後、英語を聴きながら、登場人物についての質問に答えていました。少し前の英語の授業と違って、新しい学習指導要領に則った授業は、徹底的に耳で聴きとることや、簡単なフレーズで英語をしゃべることが重視されています。その後、電子黒板に写された『先生と生徒の会話』を聴きなが

ら、宮本先生と生徒は聞き取った会話の中から、今日の文法的なテーマだと思われる『命令文』を探すやりとりをしていました。次に、電子黒板で新出単語をフラッシュ機能で読みながら確認をした後、Readingの練習を何度かやりました。最後にSpeed readingに挑戦します。レベル1が45秒、レベル2が30秒、20秒・・・と設定された速さで早く読むトレーニングをしました。5分間練習して、録音してロイロノートで提出するように指示が出ます。ちなみに宮本先生は、「昨日は10秒で読めたよ」と生徒に話していました。ここで終わりの時間が来たので、この訓練は家庭で練習して、録音したベストを提出することになりました。授業の中で様々な生徒の発声の場面があ



りました。見てみると生徒によって、声の大きさにかなりばらつきがあります。1Bの生徒は、自信のある単語を読むような場面は大きな声が出ますが、会話文のような少し長いものは声が小さくなってしまいます。語学は声に出してナンボなのです。これからの成長を期待しましょう。

さて、休み時間に教室の残った生徒からのリクエストで、宮本先生がSpeed readingにチャレンジ。ペラペラと7秒で読み切り、生徒の称賛を浴びていました。宮本先生「昨日より3秒早くなったわ」と言っていました。これを見ていた、生徒たちはやる気になったようです。授業中に全員の前で披露してほしかったな。

ちなみに余談ですが、生徒の間では、宮本先生と蛭沢先生が兄弟のように似ていると評判になっています。顔や姿だけでなく、声もとてもよく似ていて、声だけだと区別がつかないということです。それを二人に伝えると、本人たちも似ていることを自覚していて、お互いに少し戸惑っているそうです。

連合移動教室 (C組)

杉並区内6校の特別支援学級と共に、長野県南佐久郡の野辺山にある『帝産ロッジ』で、二泊三日の宿泊行事をおこないました。

C組13名の生徒が参加しました。一日目は雨の中バスで出発し、滝沢牧場に着きました。着いたときは、まだかなり雨が降っていて、今日の乗馬体験など難しいかなと思いながらバーベキューを食べていると、日頃のみんなのおこないが良いので、雨が上がり、日が差してきました。アスレチックではみんなで遊び、乳搾り、乗馬、エサやり体験とみんな楽しむことができました。その後、みんなでソフトクリームを食べ、温泉では

おのこの旅の疲れを癒していました。宿舎での朝晩の食事は、バイキングスタイルで予想以上においしい食事に、生徒も三日間大満足でした。



二日目は晴れ。午前中のオオムラサキセンターでバードコールという鳥の鳴き声をする工作体験をしました。ネジを回すといろいろな鳥の鳴き声が出ます。自然体験学習では各班、林を散策したり、施設内で昆虫の標本や展示物を見たり、実際に昆虫に触れたりと楽しんでいました。虫が苦手な先生には拷問だったようですが・・・。

午後のポッチャ交流大会では、各チームが体育の授業での練習の成果を発揮しました。残念ながら全勝とはいきませんでした。それでも他校の生徒とお互いを称え合い温かい交流ができました。

最終日は、まきば公園で羊と戯れて、ふれあい、オール館では素晴らしい音色のオルゴールを聴き、オルゴールを回す体験では一人ひとり個性溢れる音色を奏でてい

ました。「小作」のほうとうは、かなりボリュームでしたが、みんなおいしくたいらげました。

大自然の中で、大きな事故もなく、6校の生徒と教職員の交流ができた素晴らしい二泊三日でした。(沼田副校長)



【教育実習6/20~7/8】

はじめまして！三週間養護実習をさせていただくことになりました。聖路加国際大学の松永美里と申します。音楽が好きで、休日にピアノやギターを弾くことが趣味です。最近は散歩をしながら、写真を撮ることにハマっています。7年前に区内の中学校を卒業しましたが、毎日の生活や行事の事を今でもよく覚えていて、本当に濃い3年間だったなあと懐かしく思います。そんな充実した中学校生活を送ることができたのも、まわりの人の支えがあったからだと感じています。将来は自分も生徒の皆さんを支えられるような存在になりたいと思い、養護教諭を志すようになりました。一生懸命頑張ります。



音楽鑑賞教室(2年)



杉並公会堂で日本フィルハーモニー交響楽団の演奏でした。オーケストラの生の迫力やテノール独唱(芹沢佳通さん)の美しい声に圧倒されました。途中、楽しい楽器紹介のプログラムがあり、様々な楽器の音色にウキウキ。指揮者の阿部未来さんは、若手のホープのようで、踊るように指揮をする姿が素敵でした。後半はブラームスのハンガリー舞曲第五番、アンダーソンの舞踏会の美女、最後はスメタナのプルタバを聴きました。近くにいた生徒は、生の迫力に心から感激した様子で、食い入るようにステージを見つめていて、最後のアンコールの手拍子も一生懸命で、見ている私も嬉しくなりました。